

新保育園建設に係る進捗状況について

1. 計画の全体像と基本仕様

基本設計においては、「美須津保育園と赤穂南幼稚園との統合に係る新保育園建設基本計画（令和7年6月策定）」に示された基本理念・基本方針に沿うものであり、施設規模や提供サービス等において、当初の計画から大きな変更は生じておりません。

この方針のもと、公募により選定された、**倉橋建築計画事務所（松本市）**により、令和7年9月から設計を進め、現在、計画の土台となる部分の具体化を図っております。

敷地面積 **2,798㎡**

延床面積 **985.05㎡**

構造規模 **木造平屋建て**

省エネ **国の誘導基準をクリア BEI=0.75程度**
(標準：1.0以下、誘導：0.8以下)

定員 **100名**

(内訳) 5歳：25名 / 4歳：25名 / 3歳：25名 / 2歳：10名 / 1歳：10名 / 0歳：5名



2. ワークショップ（WS）等の開催

基本計画で掲げた方針を具現化し、将来にわたって使いやすく、質の高いサービスを提供できる施設とするため、実際に現場で業務にあたる職員の専門的な知見を積極的に取り入れるべく、保育士等と交えたワークショップや綿密な協議、また、保護者への説明を実施しました。

● 保育士とのワークショップ（計4回開催）

保育のプロフェッショナルである保育士の経験に基づいて、質の高い保育を提供できる施設になるよう、意見を出し合いました。現場ならではの意見や要望をしっかりと吸い上げ、設計に反映しています。

● 調理担当職員との協議

調理室については、実際の調理現場で働く職員と複数回にわたり図面を確認しながら協議を行いました。安全かつ効率的な作業動線や、厨房機器の適切な配置など、細部にわたる仕様を丁寧に固めました。

● 保護者への説明

現場の声を活かした設計内容について、保護者へ丁寧に説明を行いました。安全性や利便性向上の取り組みを伝えることで疑問や不安を解消し、新施設に対する保護者の理解を得ています。



3. 職員WS等の意見を反映した主要設計項目

本計画の具現化にあたり、質の高い保育・サービスを将来にわたって提供するため、現場職員との綿密な協議を実施いたしました。

1. 徹底した「安全・安心」の確保

(1)事務室を要とした視認性の確保

- ✓ 事務室から「玄関」および「園庭」を直接確認できる配置とし、不審者等の早期発見と子どもの見守り機能を強化します。

(2)強固なセキュリティラインの構築

- ✓ 送迎駐車場から園舎への出入口にセキュリティゲートを設置し、部外者の侵入を物理的に防ぎます。

2. 保育を支える「動線」と「機能性」

(1)園庭へのスムーズなアクセス動線

- ✓ 各部屋から園庭へ出る際の下足の履き替えや、戻る際の手洗い等スムーズに行えるよう、日々の活動動線を最適化します。

(2)成長段階に応じたゾーニング（部屋配置）

- ✓ 年齢や発達の段階に合わせて、移動の負担がないよう各部屋や主要設備までの距離（近さ・遠さ）を最適化します。

3. 将来を見据えた空間の「柔軟性（フレキシビリティ）」

(1)特別室のフレキシブルな活用

- ✓ クールダウン室や多目的室など特定の支援に必要な空間を確保しつつ、常時使用しない時間帯は他の用途にも転用できる弾力的な設計とします。



4. 概算費用の算定

工事にあたっては、発注プロセスの透明性を高め、確かな施工品質を確保することを目的として、「建築」「機械」「電気」の分離発注を想定しています。

また、事業費の算出根拠については、常に最新の市場動向を的確に反映していきます。

- $\text{工事単価 (591千円/㎡)} \times \text{延床面積} \times \text{物価上昇率 (1.3)}$

概算金額：757,000 千円

※継続費予算総額の範囲内である。

5. 今後のスケジュール

予定通りのスケジュールを維持しており、**建築工事期間は13ヶ月となる見込み**です。

一方で、今後の懸念事項として資材調達への影響が挙げられます。原油問題等に起因した建築資材全般の調達状況が極めて不透明な状況です。

今後のスケジュールへの影響を最小限に抑えるべく、市場の動向については引き続き注視していく必要があります。



